

林業福島

No. 580

題字 福島県知事 佐藤雄平



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.



12 2012

かんしゅう■福島県農林水産部
表紙の写真■冬の備え



「永井中学校の緑化活動」

第63回福島県学校関係緑化コンクール
学校環境緑化の部（中学校）

福島県知事賞 受賞 いわき市立永井中学校
福島民報社長賞

本校では、来校されたお客様を最初にお迎えするのは、職員ではありません。花壇やプランターに咲いている、季節折々の花たちです。

その花たちの栽培のほとんどに、生徒たちが関わっています。本校では、緑化活動を「花いっぱい運動」として、総合的な学習の時間に位置づけ、年間を通して活動しています。福島県学校関係緑化コンクールでは、今年度で三回連続の福島県知事賞をいただくことができました。生徒たちもこの活動にやりがいと達成感を持って取り組んでいます。しかし、生徒だけの活動では、ここまできれいな花を、絶やさず咲かせていくことはできません。いつも花の栽培についてアドバイスをくださる地域の方や、奉仕作業では総出で除草作業に取り組んでくださる保護者の方々、そして何より、生徒の活動をいつも陰で支え、花壇や用具の手入れをしてくださっている用務員さん。本校の緑化活動に関わってくださいたいです。たくさんの方々のおかげで、学校にたくさん花を咲かせることができます。

生徒たちの活動は、春は花壇の土づくりからスタートします。学校の校舎裏にある、自家製腐葉土を花壇に運びます。その後、種まき、育苗箱からポットへの仮植、花壇・プランターへの移植、水やり、枯花摘み、種・球根取りと、季節と花の生育具合に合わせて様々な活動をします。つい先日は、来春に咲かせるために、チューリップの球根とパンジーの苗を花壇に植えました。生徒たちも慣れたもので、三年生にもなると、細かい指示を出さなくとも自主的にしっかりと作業を進められるようになります。それほど、緑化活動が定着しているのだらうと思えます。ただ、本校は校庭一周に花壇をつくっているため、手入れも大変です。生徒たちが一番苦労しているのは、夏の水やりです。特に夏休み中は、水やり当番を編成し、駅伝練習の前にすべての花壇とプランターに水やりをします。そうしないとすぐに花がダメになってしまうことは、生徒も重々理解しています。今年は日照りで雨が降らず、とくに大変でした。毎日欠かさず、汗をかきながら水やりをしている姿を見ると、永井中生の素直で純朴な心を感じ取ることができます。

「花咲くことを疑わず、信じて育てる」が本校の教育理念であり、生徒、教職員、保護者、地域の方々みんなで、十四年目を迎えたこの花いっぱい運動の素晴らしい伝統を今後も守り続け、充実させていきたいと思っています。生徒たちがこの活動を通して、植物を愛するやさしい心を大きく育て、永井中を巣立つてくれることを信じています。先日植えたチューリップとパンジーに見送られながら…。



苗植える生徒たち

《も く じ》

とびら

「永井中学校の緑化活動」

いわき市立永井中学校…………… 1

「学校環境活動の実践を通して」

会津美里町立本郷第一小学校…………… 2

「復興 ふるさとの森」第10回うつくしま育樹祭開催

…………… 3～4

うつくしま21森林づくりネットワーク活動発表交流会開催される

…………… 5～6

林道を訪ねて3,000kmシリーズ（第14回）

「赤崎小倉沢線との出会い」…………… 7

普及指導員通信…………… 8

木の施設…………… 9

木連だより…………… 10

森連だより…………… 11

木材市況・ふくしま東西南北…………… 12

はなしのひろば…………… 13

「学校環境活動の実践を通して」

第63回福島県学校関係緑化コンクール 学校環境緑化の部 (小学校)

福島県知事賞 受賞 会津美里町立本郷第一小学校
福島民友新聞社長賞



葦名氏の祖、佐原義連が一一八九年に会津に入場し、日本で五本指に入る頑強な城、向羽黒山に城を立て、代々の城主が最後の砦として八〇〇年もの間活用されてきた向羽黒山のふもとに本校は位置し、瓦焼から栄えた本郷焼の町の中心部に建てられています。

『身近な自然を利用し、情操豊かな児童の育成』をめざし、学校緑化環境を整備しながら、向羽黒山等身近な自然環境を生かし活用する活動をおとして、自然を愛する豊かな心や自然への興味・関心を高められるよう、さらには郷土を愛する心を育てられるよう全職員で取り組んできました。

校舎前の花壇には、春は、一五〇〇本以上のチューリップと冬から育ててきたパンジーやプリムラマラコイデス、ジュリアン、ミックスが、桜、梅、ふじの開花と共に満開に咲き乱れます。また、校舎の周りもスイセンやバラ、ツツジ、しょうぶの花で彩られます。そこに月桂樹や山椒、桂の葉の香りが色を添えてくれます。夏からは、サルビア、フアリナセア、マリーゴールド、日々草、ベコニア、インパチェンス、ペチュニア、アゲラタムの中から彩りを考えながら数種類の花を植えています。

また、西洋アサガオ、琉球アサガオ、ヘチマ、ヒョウタン、ゴーヤ、キュウリを育て、グリーンカーテンとしても観察用としても一役かっています。

一年中、花と緑いっぱい为学校にするために子どもたちは、自ら取り組んできました。学校農園では、ジャガイモ、サツマイモ、トウモロコシ、ナス、トマトなども育て、田んぼではもち米を育て、イモやもちを地域の方に振舞ってました。

向羽黒山でどんぐりなどの木の実や木の葉を利用した遊び、フィールドワーク、大川を利用した自然体験活動、自然環境に関わる地域に伝わる民話の劇化、ツツジの植栽、樹木の看板づくり、巣箱づくりなど多くの活動に取り組んできました。

その成果は、普段の生活の会話にも表れ、「コノデカシワの下に帽子が落ちていました」「ヒマラヤスギの表示が間違っていますよ」「フウセンカズラの種って、会津じげんに似ているね」「カツラの葉っぱっていいにおいするんだよ」等…。日頃つい見過ごしてしまいうような何気ない日常の一コマに感動し、普通は、雑草と片付けてしまう小さな花でも美しさを感ずる感性が育つことに嬉しく思いました。私自身もプリムラマラコイデスの花の美しさと甘い香りに感動しました。

育てた花を地域の施設に持っていったり、地域に十二ある公園の清掃をしたりと地域との交流を深めています。中には、花の種がほしいともらいに来てくれたり、塀の花やチューリップ、花壇の花の美しさに感動し、見に来られたりする方もおられました。

今年で一三九九年の歴史に幕を閉じることになる最後の年に、「県知事賞」という名誉ある賞をいただきましたのも、会津農林事務所、緑化推進協議会、会津美里町、森の案内人の皆様、樹木看板用として木材を提供していただいた新田製材所様、関係機関の皆様深く感謝申し上げますと共に、今後もご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今後も統合小学校で、今まで培われてきたものを生かして、情操豊かな児童の育成をめざしていきたくと考えております。





参加者全員で記念撮影

このような状況を少しでも打開しようとして、県内のみならず全国の人たちの努力により一歩ずつ復興に向けて

が現状です。 現在も多くの制約を受けているの

た現況です。 現在も多くの制約を受けているの

た現況です。 現在も多くの制約を受けているの

た現況です。 現在も多くの制約を受けているの

た現況です。 現在も多くの制約を受けているの

た現況です。 現在も多くの制約を受けているの

た現況です。 現在も多くの制約を受けているの



(写真1) 「森の名手・名人」認定証交付式

イベントは、長谷川昭三氏の「森の名手・名人」の認定証交付式から

イベントは、長谷川昭三氏の「森の名手・名人」の認定証交付式から

イベントは、長谷川昭三氏の「森の名手・名人」の認定証交付式から

イベントは、長谷川昭三氏の「森の名手・名人」の認定証交付式から

イベントは、長谷川昭三氏の「森の名手・名人」の認定証交付式から

3) ① 育樹活動…グリーンフォレストの指導の下、広葉樹の伐倒(写真

午前の部は、

午前の部は、

午前の部は、

午前の部は、

午前の部は、

午前の部は、

午前の部は、

始まり(写真1)、齋藤卓夫実行委員長の開会のことば、畠利行農林水産部長の大会会長の挨拶、開催地である大玉村の浅和定次村長から挨拶をいただき、参加者全員で記念撮影をした後、県の木であるケヤキとヤマザクラを、参加者を代表して主催者側、来賓の方々を中心に復興の願いを込めて植樹しました。(写真2)



(写真2) 祈念植樹

「復興 ふるさとの森」第十回うつくしま育樹祭開催 目指せ！平成三〇年全国植樹祭招致

うつくしま育樹祭実行委員会

今回記念すべき十回目となるうつくしま育樹祭は「復興 ふるさとの森」と題して、復興元年となる今年、東日本大震災からの復興を祈願するイベントとして開催しました。

うつくしま育樹祭は、県民一人ひとりに緑の大切さを再認識し、森林(もり)に親しむことで「心にやすらぎ」や「心の拠り所」として緑を感じていくことを趣旨として開催してまいりましたが、昨年の大震災さらには原発事故により、私たちが育んできた「豊かな緑と自然」が失われてしまいました。特に若い世代や子どもたちにとって事故から一年以上経った現在も多くの制約を受けているのが現状です。

歩み始めています。その歩みを安達太良の豊かな緑を通して感じてほしいとの思いで、今回の育樹祭を開催いたしました。会場となった大玉村のふくしま県民の森は、安達太良の山々を目の前に望める場所で、紅葉がまだあちらこちらで顔を覗かせていました。秋晴れの青い空の下、被災され仮設住宅に避難されている方々をはじめ、県内外から約三五〇人が集まりました。

始まり(写真1)、齋藤卓夫実行委員長の開会のことば、畠利行農林水産部長の大会会長の挨拶、開催地である大玉村の浅和定次村長から挨拶をいただき、参加者全員で記念撮影をした後、県の木であるケヤキとヤマザクラを、参加者を代表して主催者側、来賓の方々を中心に復興の願いを込めて植樹しました。(写真2)



(写真4) 植樹作業



(写真3) 育樹作業

② 自然観察と植樹活動・森の案内人が同行し、自然散策と植樹（写真4）

に分かれて活動しました。育樹作業、植樹作業では、子どもたちが慣れないノコギリやスコップを使って、真剣に友達と一緒に楽しみながら取り組んでいました。自然観察の参加者は心地良い木漏れ日を受けながら観察して回りました。昼頃からの強風により屋外での活動が困難になったため、昼食や体験コーナー等すべてのプログラムを森林学習館内で行うことにし、お昼はアツアツの豚汁が参加者にふるま



(写真5) 自然観察

③ 自然観察・森の案内人のガイドによる森林の学習（写真5）



(写真6) 豚汁をほおぼる子供たち

れ、各々持ち寄ったお弁当と一緒に昼食を楽しみました。（写真6）

午後は、参加者全員による復興交流会が行われ、受付時に書いていただいたメッセージボードを抽選してメッセージを読み上げ、景品には大玉村産のお米等が贈られました。復興への願いが込められたメッセージが読まれるたびに歓声と拍手が飛び交っていました。また、学習館の敷地内で①プラ板体験、②パウチング体験、③小枝クラフト体験、④丸太切り体験の四つの体験コーナーが設けられ、各々自

分が参加したいコーナーに参加し、それぞれの係員から指導を受けての作業となりました。その他にも企業の森林づくり活動や森林除染等のパネルによる展示コーナー等、震災後の県内における森林再生の取り組みについて紹介しました。最後に育樹祭参加の記念として、ドウダンツツジ、ヒユウガミズキ、ユキヤナギ等の七種類の苗木を準備し、参加者全員に配付しました。この育樹祭に参加した皆さんの笑顔をたくさん見ることができました。その笑顔の中には震災と原発事故のつらい経験を乗り越えていく強さがあつたように思います。福島県は、平成三〇年全国植樹祭の招致を表明しました。全国植樹祭を開催し、震災・原発事故から復興を成し遂げた「緑豊かな福島」を全国にアピールするためにも、こうした地道な活動を今後も続けることが大切なのだとい今回の育樹祭を通して改めて感じました。

うつくしま21森林づくりネットワーク

活動発表交流会開催される

うつくしま21森林ネットワーク（渡辺一夫会長）は、十二月二七、二八日の両日、南会津町の会津山村道場で平成二四年度の活動発表交流会（テーマ・山村文化と森林づくりを活かした都市との交流）を開催し、県内各地からネットワーク会員及び一般参加者ら四五人が参加し、熱心に討論や情報交換等を行いました。

初日の二七日は、講師にお迎えしたNPO法人森林野会副理事長の下村一裕氏から、「感動体験が未来を創る種となる」と題し、事例をDVDや資料を用いて教育旅行が地域づくり、子どもの成長に与えた影響などを紹介した基調講演をいただき、その後、福島森林インストラクター事務局長鈴木比良氏をコーディネーターとして、講師の下村一裕氏、県南木もれび倶楽部会長の山本光子氏、NPO法人森林野会会長の加藤雅之氏、NPO法人いわきの森林に親しむ会理事長の松崎和敬氏、NPO法人福島県もりの案内人の会副代表理事の荒井勇氏の五名の方にパネラーをお願いしてパネルディスカッションをしていただき、質問や意見等も活発で時間が不足するくらいたいへん有意義な活動発表交流会となりました。



パネルディスカッションの様子



講演するNPO法人森林野会副理事長 下村一裕氏

初日の二七日は、講師にお迎えしたNPO法人森林野会副理事長の下村一裕氏から、「感動体験が未来を創る種となる」と題し、事例をDVDや資料を用いて教育旅行が地域づくり、子どもの成長に与えた影響などを紹介した基調講演をいただき、その後、福島森林インストラクター事務局長鈴木比良氏をコーディネーターとして、講師の下村一裕氏、県南木もれび倶楽部会長の山本光子氏、NPO法人森林野会会長の加藤雅之氏、NPO法人いわきの森林に親しむ会理事長の松崎和敬氏、NPO法人福島県もりの案内人の会副代表理事の荒井勇氏の五名の方にパネラーをお願いしてパネルディスカッションをしていただき、質問や意見等も活発で時間が不足するくらいたいへん有意義な活動発表交流会となりました。

NPO法人A・R・Sの活動

副理事長 下村一裕

NPO法人A・R・Sでは地域の自然をいかした体験活動を提供することで、過疎山間地における自然との共生を基本としながら、二一世紀の新しい価値観と地域活性化を融合した活動ができるように様々な事業に取り組んでおります。農業体験、郷土料理体験、スポーツ体験、自然体験、雪国体験など多種多様な体験を企画運営しておりますが、特に次世代育成を目的とした教育旅行の受け入れに力を入れております。主に首都圏から来県される小中高校生を対象とした体験活動では、南会津の豊かな自然を活用した「林業体験」「きのこ体験」「炭焼き体験」「木地師体験」などは、サマーシーズンの人気体験となっており、森林に関わり自然とふれあうことで、子供達の環境理解、将来に向けた森林への興味



を引き出せるように、森林組合と協議を重ね、子供達の一生の思い出となるように工夫いたします。また、尾瀬ハイキング・田代山登山・ブナの散策を通じた自然とふれあう機会において、森林の貴重さや必要性・美しさを五感で感じてもらい、その中で、湿原の価値・保護のための木道の話などを取り入れ、自然体験の場において、環境保護活動の大切さを伝えるガイドの派遣もしております。

今後の抱負

地域にある当たり前に感じる自然が宝であり、守るべき貴重な資源であるということに気づきを得て、自然との共生を目指すと共に、過疎山間地域の活性化に貢献できる活動となれるようにしていきたいと考えております。

県南「木もれび倶楽部」の活動

会長 山本光子

県南木もれび倶楽部は、福島県南地域のシニアから不登校児・小中高生・障がい者などを中心に異世代間交流でコミュニケーション力の向上を目指しながら、社会教育・地域社会の活性化及びみどり環境保全の推進を目的とした、元気のある街づくりを支援する活動を行っております。

今年度は、白河・白河西・白河南・矢吹ロータリークラブよりご支援を賜り、白河市南湖森林公園において「木工体験教室」を開催しました。参加者は、地域の子どもからシニアに加え、県南地域に避難されている三・一一の被災者たちです。南湖森林公園は豊かな自然を白河の街中で味わうことができる、自然環境教育には最適な環境で、参加した方々も日頃のストレスから解放され、県南木もれび倶楽部が講師として参加



したこの体験教室を笑顔で楽しんでいました。

さらに、JR新白河駅東口前・西郷村道南東公園において、小さなお子さんをもつ親子を対象にバラ苗を記念植樹しました。本事業には『あなたの手でバラを植樹し成長を楽しもう』と、バラの成長を親子で楽しみながら継続的に手入れを行う目的があります。また、日本で唯一新幹線が停車する村、西郷村新白河駅前公園で事業を開催することにより、駅前が親子連れでにぎわう素敵な新白河を実現できるように考えています。当日は、グランディ那須白河ゴルフコース佐藤支配人と佐藤西郷村長をお迎えし、沢山の親子と共に植樹を行いました。

昼食には豚汁を食べ、和やかに交流を致しました。



私達は、南会津の森で、森林ボランティアと森林の利活用を考え、実施する団体です。

現在、森林づくり活動などに対する支援、森林づくり活動の実施・普及・啓発、自然観察会等を通じた環境教育プログラム、地域の活性化に貢献するための各種イベント・企画運営の構築・実施をおこなっています。

しかし、東日本大震災後は、福島原発の風評被害もあり、観光業を含めて来訪者が減少している現実があり、せっかく育成した森林インストラクターも困っています。

そんな中で、現在、フォレストセラピーという、森からの癒しを提供しようという試みをおこなっており、その事業化を思案中であります。

企画としては、森林インストラクターと森林の中を散策したり、運動したりして、ストレスを解消し、心と体の健康づくりのお手伝いを、森林活用という形で進める内容となっております。

分野が違う為なかなか苦労も多い

NPO法人森林野の会の活動

会長 加藤雅之

のですが、健康づくりや精神衛生など、南会津の自然・森林と、人・医療・施設を、癒しをキーワードに活用できればと考えております。

事業のセカンドステップは、基盤整備としてセラピーロードと基幹地・セラピー人材育成や医療系協力者ネットワークなどの人材確保をして、県内外にむけてメタボリック・アレルギー・うつ病などへの療養対応を図り、企業向けのサービス、又、転地医療としても、施設はレンタル&シェアリングで、新しい需要の開拓を実践していきたいです。





林道を訪ねて3,000kmシリーズ（第14回）

赤崎小倉沢線との出会い

技術士 中村多伸

路線名	赤崎小倉沢線	幅員	5.0～5.5m	延長	9,851m
市町村名	会津若松市湊町平潟～郡山市湖南町地内				
開設年度	昭和48年～昭和61年	事業名	林道開設事業		

1. 赤崎小倉沢線との出会い

当該路線は、猪苗代湖畔を一周する線形で計画された林道だが、変則な利用区域で良く補助事業として採択されものだと感心した路線として印象が強い。

現在の猪苗代町の「金の橋」付近にある国道49号に隣接するレクリエーション公園の取り付道は以前に「笹山林道」と呼称され、当時県単独事業で5.0mの林道が作られている。既設林道との関連で当該路線も作られたようである。このコーナーでよく出てくるフレッシュリゾート構想は、まことにこの林道に象徴されるように「湖畔一周道」として脚光を浴びることになり、幅員5.0mで施工するに至ったという、今では信じられない理屈を立てて実施に至ったことを思い出す。

2. 現地の状況

- ①路面は完全舗装され、維持管理は法面の草刈り側溝の排土等極めて良好に管理され、特に安全標識・指示標識等が良好な管理下にあった。
- ②交通量が多くサイクリングを楽しむ方々の多いのに驚いた。
- ③性格上待避所を多く設定したが、その機能が有効に果たしていた。

3. 技術的な課題とその現状

- ①当該路線の課題は、玉石交じり土や破碎岩盤が多く次のような課題があった。
 - 1) 法面保護工法・根固構造物高・構造物のタイプ・崩落土の防止策等
 - 2) 紙面の関係上制約されるが、開設から維持管理に多大の労力を要したと推測できるが、当時の法面保護にヤマハンやハギ等木本類や在来種の導入を図ったが、玉石混じり土の法面や破碎岩盤箇所には随所にハンノキが繁茂して崩落岩を抑える効果が認められる。
 - 3) 根固構造は、ブロック・二次製品が使われ、ブロック高に高すぎる箇所が一部認められるが、不安定な法面を保護する効果も狙ったのかもしれない。
二次製品は、2m以下で切土長から適切であり違和感がなくバランスが取れていた。前述したが、積雪地帯では法面が不安定な場合は最小限の構造高さで計画することが良いと述べてきた。当該路線でもそれが実証されている。
 - 4) 車両の防護策として、ガードレールよりガードロープが良いと述べてきたが、郡山市側はレールで、若松側はロープを使用している。積雪量が多くないので、極端な比較は出来ないが、ロープは破損もなく機能していた。
 - 5) 既設路面の舗装する場合の横断工の取り扱いには、施工性上平坦性を確保することが容易でない場合が多いので、一般的には、降雨量の排水は舗装することによる排水機能が高くなること及び片勾配に設計することにより、横断工が不要な場合が多いので留意する必要がある。



金網の間からマツが成長している

..ひとり言..

部内に検査体制が作られたのは、昭和46年頃当時の農林課内に「工事検査班」として設置され、農地・林業からそれぞれ5人の職員が配置されました。まだ係にもなりきれない、分家の処遇で、財政的な援助を原課から受け、コースから一步離れた職員で構成されていました。しかし、このセクションが脚光を浴びる時代が到来します。独立した検査体制は個々の専門的技術が浸透し、会計検査の窓口としての機能が加わり、出先との連携が密になり、昭和50年10月に設計書の電算化がスタートして、農林検査課の誕生に結びつくのです。それまで、技術者が個々に積算していた時代から、福島県の積算体制が確立されたと思います。



法尻が堅固で法面の植生が良好

現在の特用林産普及について

■県中農林事務所

林業普及指導員 松崎 明

昨年の東日本大震災・原発事故に伴い、きのこをはじめとした特用林産物の安全確保のため、緊急時環境放射線モニタリングを行っています。また、昨年秋からは、きのこの生産資材（原木、ほだ木、菌床等）の放射性物質検査のための試料の集荷、調製、運搬業務にも多大な労力を要しています。

今年度に入ってから検査業務は継続しており、普及指導員全員で対応にあたっております。4月から11月末までの検査件数は、栽培きのこ、山菜等のモニタリングで183件、原木、ほだ木、菌床等のきのこ生産資材の検査319件、薪、木炭等の検査で63件の計565件に上っています。

このため、きのこ等特用林産の普及指導内容も従来の栽培指導主体から、放射能対策、損害賠償に関する情報提供、また、放射能対策に関連する補助事業（「安全なきのこ原木等供給支援事業」「きのこ用ほだ木処理対策事業」）の指導等が主なものとなってきています。また、生産者の生産施設等の放射線量調査等も常時行っているところです。このように、普及指導の内容が様変わりしてしまったところですが、これが、生産者が安全に生産を継続する一助になればと考えております。

当管内には多くのきのこ生産者がおりますが、残念ながら、昨年から今年にかけて、主に原木きのこの生産者で生産の継続を断念された方もみられました（平成24年8月現在、生産者数114名）。

現在、きのこ生産を取り巻く状況は大変厳しいものがありますが、生産を行っている皆様の生産継続に向けて、生産者とともに当所の普及指導員も力を合わせて、この状況に立ち向かっていきたいと考えています。

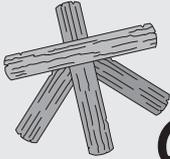
時に「きのこの生産をこれから始めたい」という方の相談もみえられますが、このような状況の中では生産を勧めることはままならない状態です。早く笑顔できのこ生産を勧められる時が来るのを待っているところです。



ハウス内でのほだ木作り状況



ほだ木の資材検査（調製）の様子



の施設

No.9
部分的使用からオールメイドイン南会津材へ
～南会津町での取り組み～
南会津農林事務所

南会津町は、古くから木の街として栄え、今なお、町内の随所に昔の面影が残っています。

しかしながら、丸太の流出や代替材との競合など、極めて厳しい状況にあつて地元での利用が進んでいません。

木材の街として栄えた過去が昔話になりつつあることに、危機感を持った郡内の素材生産業者で組織する「南会津地方木材安定供給連絡会議（会長 大嶋仁）」では、町有林からの木材を地元へ供給することで、安定的な木材需要を生み出し、地元雇用を促進させる足掛かりになると考え、昨年暮れ、南会津町長や町関係者と意見交換する機会を設けました。この意見交換会に参加した会員は、丸太の供給の他に、町発注の公共建築物での地元材の利用促進や伐

採跡地の造林にまで注文を付けることとなりました。

これを受けて町では、今年の十月十八日「だいくらスキー場駐車場」で行われた「南会津産木材市」に、町有林から伐採したスギ、カラマツ、六四一立方材を地元の素材生産業者に委託して出材しました。この出材は、地元の製材工場や木材市場に参加した多くの買い手から大変好評を得る結果となり、町有林材供給への第一歩を踏み出す試みが始まりました。

また、利用面では、公共建築物への地場産材活用を促進するため、町農林課や建設課に地元の製材業者など、民間事業者等も加わって、年明け早々から検討を繰り返してきました。さらに、伐採現場や丸太の検地作業、製材行程、木取り等も現場で学んだそうです。

そして、過去に学ぶことの大事さを痛感させられた検討会では、平成二四年度から、南会津町産木材を積極的に利用するためのモデル事業に取り組むことになり、消防屯所二棟、消防車両格納庫一棟の建設がスタートしました。

取り組みの内容は、町が入札で建築本體工事の請負業者を選定する一

方で、南会津産木材を調達するため、地元の製材業者と、山土場からスギ丸太八九立方^{メートル}の運搬、製材、乾燥・保管を委託契約し、建築本體工事請負者に、製材品を現物支給する形で建物造るといふもので、現在も進行中です。

今後は、公共建築物等木材利用促進法に基づく南会津町方針の策定、公共建築物に係る年次計画の情報提示、南会津町産材利用を義務付けできるシステムの構築などを推進していく予定です。この取り組みは、南会津町産木材の利用促進が確実に実行され、南会津地域の林業の活性化に大きく寄与するものとして、近隣町村からも注目されています。

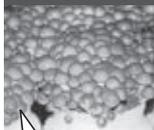


製材品の現物支給で進められている消防屯所

きのこで地域を元気に (社)福島県森林・林業・緑化協会 きのこ振興センター

●菌床栽培用ナメコ(登録品種)

福島N1号



安定多収量

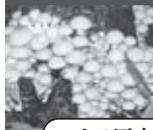
福島N2号



大型・滑り少

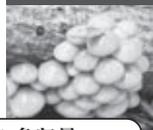
●原木栽培用ナメコ(登録品種)

福島N3号



コナラ原木で安定・多収量
食物繊維、ペクチン様物質豊富

福島N4号



○その他各種種菌

○菌床 ・シイタケ
・ハタケシメジ
・ムラサキシメジ等

○マイタケホダ木 ○栽培資材

〒963-0112 郡山市安積町成田字西島坂7-2 Tel 024-947-2188 Fax 024-947-6926
E-mail:f-kinoko@mtj.biglobe.ne.jp URL:http://www.f-kinoko.org

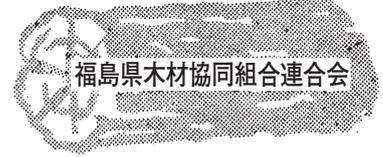


木材競り会場

東日本大震災で被災した東北地方の復興を支援しようと、東北産木材を販売する第2回「復興市」が十一月二十七日、大阪市港区の大阪木材相互市場で開かれました。木の香りが漂うなか行われた福島県産材の競りでは、約三〇立方メートルのスギやヒノキが十分ほどで完売しました。

木連だより

第2回「復興市」
(株)大阪木材相互市場で
開催される
—福島県産材すぐに完売—



被災地の木材を販売する機会を設けることで東北の復興支援につながると、大阪木材相互市場や大阪木材青年経営者協議会などが主催し、大阪府木材連合会などが後援。二回目の今年は、原発事故による風評被害を受けて需要が低迷している福島県産材を中心に、大阪府や岩手県、岡山県、和歌山県など各地域産材の競りやPRが行われました。

十時から式典が行われ、主催者のあいさつの後、来賓として大阪府副知事、林野庁木材産業課総括補佐、そして福島県大阪事務所副所長の祝辞がありました。

続いて福島県産材のPRに移り、福島県を代表して福島県木青壮年協会の大平会長から、福島県内の木材業界では、各工場で自主的に木材の放射線量検査を実施しており、自主管理基準値を下回っていることを確



式典、来賓あいさつ



図-1

認してから出荷していると説明しました。

その後福島県産材の競り売りが始まり、スギKD柱材五万一千円〜五万二千円など約三〇立方メートルの製材品等がご祝儀相場で十分ほどで完売しました。

福島県産材製材品の県外出荷はそ



競りの様子

の大部分が関東地方であり(図-1)、今回大阪府木連や木材青年経営者協議会のお世話により、関西において出展PRできたことは本当に感謝したいと思います。

これを機会に県産材の安全をPRしながら、関西方面への出荷にも力を入れていきたいと考えています。

〈出展品目〉	
① スギ	柱・間柱 (株)荒川材木店
② スギ	柱 (有)高林材木店
③ ヒノキ	大引 (株)清野材木店
④ ツガ	胴縁 (株)三瓶材木店
⑤ ツガ	杭木 共力(株)
⑥ 集成	桁 (株)キクモク

森連だより

第15回
福島県森林組合連合会
良質材展示会開催

去る十月十七日、いわき木材流通センターにおいて、「第十五回福島県森林組合連合会良質材展示会」(センター平成八年開設)を開催いたしました。

この行事は、林野庁、関東森林管理局、福島県、福島県木材協同組合連合会からのご後援をいただき、毎年当センターの記念市と同時に開催され、育林技術や造林技術の各項目毎の評価審査に基づいて、各賞が決定されます。(昨年は、東日本大震災および東京電力福島第一原発事故により未開催)

生産技術の改善向上と商品価値を高め、森林組合共販材の優秀性を広く紹介すること、また木材需給の安定に寄与することを目的に開催回数を重ねてきました。

展示会を開催し続けてこられたのも、当センターをご利用いただいております出荷者、買方者のご協



力ならびに関係機関のご指導ご協力があったることこの場をお借りして感謝申し上げます。
では、展示会の概要(審査)と各賞の受賞者のみなさま(表2)を紹介させていただきます。

審査のながれ

第一次審査 出品物の搬入時に行われ、材の数量規定を満たしているか、造林技術や商品価値などが主な審査項目となっております。
第二次審査 第一次審査を経た材について、審査項目(表1)により、各賞が決定されます。

結びに

国により進められている「森林・林業再生プラン」では、二〇二〇年までに日本の木材自給率五〇%以上を目指しています。

福島県では、未だに原発事故によ

る影響がなくなつたとは言えず、販売面からも難しい面がありますが、森林組合系統：一木材市場として、今後も消費者のみなさまに福島県産材を「安心」してお求めいただける

よう、取扱体制の強化に全力で努めてまいりたいと考えておりますので、今後も当センターをご利用下さいますようお願いいたします。

林野庁長官賞



関東森林管理局長賞



福島県知事賞



(表1)

審査項目	点数	審査対象	採点基準
育林技術 (50)	10	節の有無・大小	無節又は小節で数の最も少ないものを満点とし以下順次減点する。
	10	年輪幅	年輪密度及び均衡度の良好なるものを満点とし以下順次減点する。
	10	材の曲がり	通直なものを満点として以下順次減点する。
	10	材のまる身・偏心	偏心なく円成長良好なるものを満点とし、以下順次減点する。
造材技術 (30)	10	材の光沢・色彩	木部の光沢・色彩の良いものを満点とし以下順次減点する。
	10	枝はらい	良好なものを満点とし以下順次減点する。
	10	材の切断面	良好なものを満点とし以下順次減点する。
総合 (20)	20	延寸	適性なものを満点とし以下順次減点とする。
		商品価値市場性	材質及び材種等市場性の高いものを満点とし、以下順次減点とする。

(表2)

受賞者紹介

	受賞者名	産出	樹種	長級 (m)	径級 (cm)
林野庁長官賞	緑川農林 緑川 平隆	いわき市	ヒノキ	6.00	16~20
関東森林管理局長賞	田村森林組合	田村市	スギ	3.00	18~20
福島県知事賞	ふくしま中央森林組合石川事業所	石川町	スギ	4.00	46~48
県木材協同組合連合会長賞	いわき市森林組合	いわき市	スギ	3.00	18~20
県木材協同組合連合会長賞	(有)平子商店	いわき市	スギ	3.00	18~20
県森林組合連合会長賞	磐城造林(株)	いわき市	スギ	4.00	40~44
県森林組合連合会長賞	水野 郁夫	古殿町	スギ	3.65	46~48
県森林組合連合会長賞	石嶋商事 石嶋美智男	田村市	スギ	3.65	40~44

木材市況

素材の価格〈工場着価格〉(9月15日現在)

(単位: m³当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	8 (8~9)	△1	(0~0)	0	9 (9~9)	0	9 (8~9)	0
		10~13		並	スギ	9 (9~10)	0	8 (6~9)	0	10 (10~10)	0	9 (6~10)	0
	中	14~18	3.00	並	スギ	11 (11~12)	1	9 (8~10)	0	10 (9~12)	0	10 (8~12)	0
				並	ヒノキ	17 (15~18)	0	(0~0)	0	15 (15~15)	0	16 (15~18)	0
		6.00	並	スギ	19 (16~21)	1	(0~0)	0	15 (14~15)	0	17 (14~21)	0	
			並	ヒノキ	24 (24~24)	0	(0~0)	0	21 (16~25)	0	22 (16~25)	0	
	20~28	3.65	並	スギ	12 (10~14)	1	11 (10~12)	0	11 (10~12)	0	11 (10~14)	0	
		4.00	並	アカマツ	10 (8~11)	1	(13~13)	0	9 (9~9)	0	10 (8~13)	0	
		1.80	並	アカマツ	7 (5~8)	1	9 (9~9)	0	8 (8~8)	0	7 (5~9)	0	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	22 (22~22)	0	(0~0)	0	22 (22~22)	0	22 (22~22)	0
並				米マツ	25 (24~26)	0	26 (26~26)	0	23 (23~24)	0	24 (23~26)	0	
28以下		4.00	並	エゾマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	22 (22~22)	0	22 (22~22)	0	
			並	ベニマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	22 (22~22)	0	22 (22~22)	0	
南洋材		70~90	8~14	並	ラワン	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0
				並	アガチス	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0
パルプ用材	-	-	並	マツ	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
			並	広葉樹	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(0~0)	0	(0~0)	0
	13~14		並	カラマツ	(0~0)	0	(0~0)	0
	16以上		並	カラマツ	(0~0)	0	9 (6~11)	*

注) 1. 前月差の△印は値下りを、*印は前月実績がなかったことを示す。
 2. ()内は各地域の価格幅、()外は各地域の平均的価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。

八月の原木市場への入荷状況は、前月並み(前年比一七割増)の一七、六三九立方材となつてゐる。
 販売量については、前月比二割増(前年比二二割増)の一七、九七三立方材となつてゐる。
 一、八月の取扱量は、入荷量、販売量ともに前年とほぼ同程度となつてゐる。
 九月の価格については、保合である。

東京電力(株)福島第一原子力発電所から直線距離で約十六キロメートル。JR小高駅近くの二軒の中華そば屋といえ「山川食堂」と「双葉食堂」。一説には味噌ラーメンなら「山川」、醤油ラーメンなら「双葉」とも言われていたとも。そんな二軒の中華そば屋は、昨年三月十二日の半径二〇キロメートル圏内避難指示以降、残念ながら休業に追い込まれてしまいました。

しかし、「双葉食堂」は昨年十月二三日に南相馬市鹿島区にオープンした仮設商店街「かしま福幸商店街」の一角で営業を再開しています。再開当初はいつ行っても店先に客があふれていて泣く泣く入店を断念していましたが、半年が経った頃からやっと大盛り中華そばにありつくことが出来るようになりました。再開後のメニューは「中華そば」ともやしラーメンのみ、現在は「かけうどん」と「肉うどん」が追加になっていて、いつも客足が途絶えることはなく、一組帰れば新たに一組



祝！営業再開…続々!!!

相双農林事務所森林林業部
林業課

金成祥実



これは「中華そば」の普通盛り

が来店するという繁盛ぶりです。その他にも、相馬市松川浦で被災した旅館や民宿、食事処が営業を再開し、『復興チャレンジ丼』などのイベントを開催しています。また、避難区域にあった美味しいあの店も各地で続々と営業再開していますので、詳しくは相双地域の情報ウェブサイトで『相双ビューロー』で御確認ください。復興の応援も兼ねて是非お越しください！

はなしの
ひろば

天然更新

先日、若い頃に林業関係の教育に携わっていたという方と話をする機会があった。その方曰く、戦後、木材資源を確保するために皆伐を行った罪滅ぼしに人工造林が行われていたところがあった。例えば、標高の高い、奥山のブナなどの天然林が皆伐され、その後には拡大造林と称して、スギ、カラマツなどの植栽が行われた。その結果、現在、標高の高い地域に不連続の造林地が多数見られることとなった。

今、国では、集約化と高密度路網による伐採をすすめ、木材自給率五〇%を目指すとされている。そして、伐採跡地は天然更新による森林再生が声高に言われている。

森林の手入れの状況は別にしても、一、〇〇〇万の人工林と里山林としての広葉樹林の資源が日本には存在する。極端なことを言えば、これらの財産を皆伐で食べ尽くした後を自然再生に任せる話であると言う。

均質な木材を短期間で収穫できる森林づくりが人工造林だったはずが、一体何時になったら利用できる資源として森林が再生するのかわからない天然更新に頼るのは、資源政策といえるのか疑問である。と話しておられた。

話の善し悪しは別として、ある研究会で「天然更新や天然林施業はどこまで可能なのか」をテーマに講演と討論があった。

講演者によると、ササやシダが繁茂していない林分では、伐採後十年もすれば木本類が優先する森林が再生され、数十年から百年単位で見ればササ地でも森林へと変化する。ただし、樹種は問わない条件である。

天然更新の成功は、林床に次代を担う高木性の樹種（量を含め）がどれだけあるかで決まる。そのため、一斉人工林地の伐採跡地では量が少ないため、伐採を天然更新のみで広葉樹林化させることは無理と思ったほうが良い。目標・目的を持った森林を望むのであれば、ほっとけ林業は存在しないという。

伐採跡地を広葉樹林へ天然更新で再生する道を選んだとしても、現地調査を十分行い、高木性の次世代木が少なければ、後継樹を確保するため、再造林等により更新を手助けすることも必要と思う。将来、森林に求められる機能（ニーズ）がどのようなものになっているかわからないが、高木性の樹木による森林の方が、木材資源としても環境資源としても、ニーズに対する自由度は高いと思われるのだが。

安達 董風

表紙の写真



「冬の備え」

第9回ふくしま森林・林業写真コンクールで優秀賞を受賞した武藤秀隆さん（須賀川市）の作品。

編集

福島県内四森林管理署

福島県森林・林業・緑化協会

福島県森林組合連合会

福島県木材協同組合連合会

福島県農林種苗農業協同組合

福島県農林業公社

森林総合研究所福島水源林整備事務所

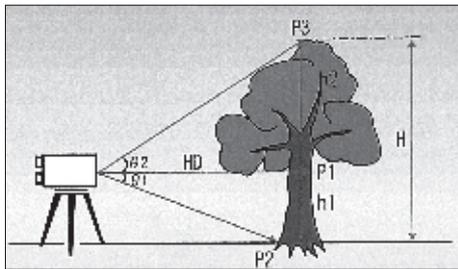
福島県森林・林業・緑化協会

（福島市中町五番一八号県林業会館内）

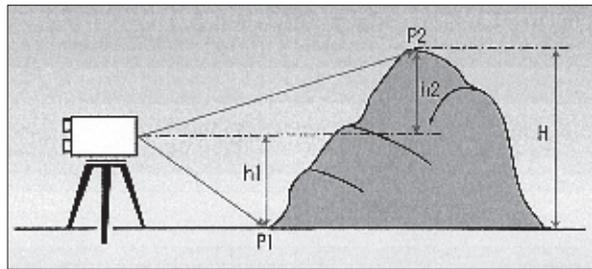
発行人
相馬 雅俊
陽光社印刷株式会社
（定価 六三円）

高さ測定

1. 樹木の様に比較的まっすぐな場合

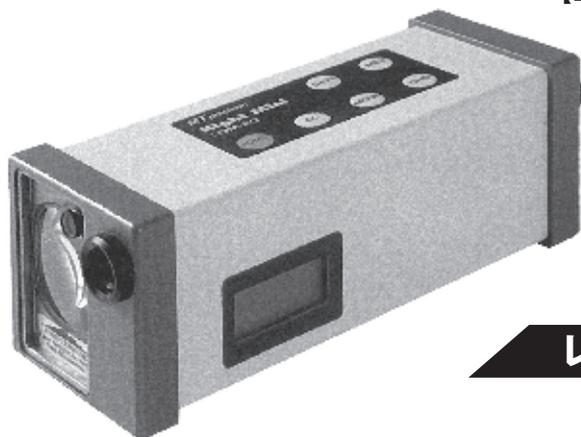


2. 堆積物等の山なり形状の場合



【LDM-20 仕様】

測距範囲	反射板 無30m 有300m
測距精度	± 5mm
傾斜センサー分析能	0.1
測定	高さ・水平距離・斜距離
寸法	W64・H64・D180
重量	650g
付属品	ソフトケース・反射板・取説 RS232Cケーブル・EXCEL取込ソフト



LDM-20

レーザーハイトセンサー「ハイト mini」

株式会社 福島測機

福島市渡利山ノ下前37-2 TEL024-523-1706 FAX024-523-1704

備えのパートナー 森林国営保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



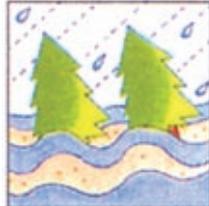
1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



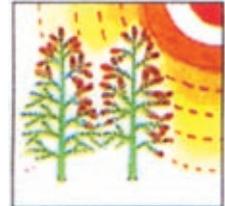
3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



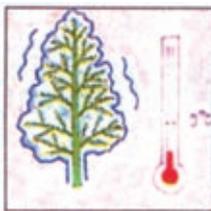
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

- ◆ 県内各森林組合
- ◆ 福島県森林組合連合会

又は 県庁森林保全課
TEL 024-521-7441

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追及したプロセッサ

- 高耐久性を追及したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒969-1149 福島県本宮市本宮万世11-7
TEL 0243-34-5440 FAX 0243-34-5442

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!

大地のめぐみ、まっすぐ人へ
SCC GROUP
住化グループ

自然との調和

(私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。)
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

野生獣類から大切な植栽木を守る

ヤシマレント

蜂さされ防止

ハチノックL (巣退治)
ハチノックS (携帯用)

大切な日本の松を守る 住化グリーン®の林業薬剤

ヤシマスミバイン乳剤
ヤシマスミバインMC
グリーンガードNEO
パークサイドF
ヤシマNCS
モリエートマイクロカプセル
マツグリーン液剤2
マッケンジー

くん蒸用生分解性シート

ちゅらシート (茶・白)
与作シート (茶・白)
(折りたたみ式
専用キャリーバック使用)

住化グリーン株式会社

本社 〒104-0032 東京都中央区八丁堀4丁目5番4号
東北営業所 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央3丁目10番3号 泉セントラルビル202号室

TEL.03-3523-8070 FAX.03-3523-8071
TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

排気量 **18.3cm³**
世界最小・最軽量、2.2kgの手のひらサイズ

G2000T

20cm(8インチ)・SP ¥66,675(税込)
20cm(8インチ)・CV ¥72,765(税込)

排気量 **40.1cm³**
さまざまな用途に対応、本格プロ仕様シリーズ

G4211EZ

40cm(16インチ)・SP ¥135,660(税込)
45cm(18インチ)・SP ¥137,865(税込)
40cm(16インチ)・H ¥135,660(税込)
45cm(18インチ)・H ¥137,865(税込)

使いやすさを追求したハンドルと思いのアクセルワークが可能なたりガーレバー。

BC2711DW1-EZ

・防振ハンドルブラケット
・トリガーレバータイプ
チップソー ¥79,380(税込)
笹刈刃 ¥78,330(税込)

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店

(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1